

**この人!****ムーアカデミーの生みの親 第一工房 柳澤 力さん**

拝啓、海上の森の精霊さま

恐れ多いタイトルを戴いてしまいました。仮に私が親の1人なら、数え切れない爺や婆がいます。そうした方々の想いを引き継ぎうまれた「もの」ですが、自分の子どもが分身に思えるのも事実です。さて、これからどう育つのでしょうか。

5年後 日本館跡地をムササビが渡れるころ。草創期の職員は週末の度に帰ってきて先輩風を吹く。ヤクルトのおばちゃんや常連さんら主は「ばんばくって、なぁに？」と聞く子供達に講釈を。カエルたちが、外来カビによる被害でさあタイヘン。

10年後 育った高木に埋もれチラっとしか見えないセンター本館。駐車場脇に子供用足洗い場やトイレ、収蔵庫棟が完成。海上の森の会が部分指定管理となり、経営する館内グッズショップやカフェが密かな人気。キクイムシの猛威で落葉樹や松が減少。

25年後 中庭のコナラにツリハウスが出来、悲願の

センター職員の随想レレ

**かたりべのひと言!****里山再生の取組**

里山再生とは何か。私は、里山体験から、かつての里山の機能、くらしや文化、息づく知恵を学び、里山の新たな価値を見だし、現在社会に活かすことであり、それは実際、里山保全活動に関わり、気づき、学ぶことから始まるものであると考えています。

例えば、里山の自然が育ててくれた餅米でつくたてのお餅をいただくとき、素朴にうれしさや豊かさを感じます。巷にあふれる「もの・モノ」に対する欲望から少し気持ちを離して、自分のライフスタイルを見つめ直すことも一つの活かし方です。多くの人が参加交流し、こうした体験を積み重ねていくこと、すなわち里山再生の取組とは、里山から私たちが再生させられることかもしれません。

そのためにも海上の里山を大事にし、未来に引き継ぐことが大切だと思っています。(T.U)

溜池復活で里は稲穂で埋まり長老喜ぶ。混交林化が進んだ森からは、お手入れ伐採の広葉樹が超高額銘木として売れ始める。熊出没多発で万里の長城のような熊除け柵が森に登場か。

50年後 里山モデル KAISHO が注目され続け、長老の孫たち活躍。一方、センター本館も手狭で老朽化のため宿泊施設にリニューアルし、新センター県立博物館が別敷地にオープン。アメリカシロアリが土壌を荒らす。

100年後 東海大震災。旧本館は残るも遂に閉鎖。クズに覆われ廃虚となった建物は、森の神殿のごとく様々な動植物たちの魚礁に。攪乱で亜熱帯化は加速するも、母なる森は永遠に残る。

親の心、子知らずとか。森の一員としてセンターが、ワンパクに愛されて育てば幸いです。(つづく)

プロフィール

日進市出身 / 設計事務所第一工房勤務 /  
アマダプラム(6812m)北稜日本人初登頂

**森のなかま**

ムササビ(リス科ムササビ属)

本州、四国、九州に

生息する日本固有の

動物。海上の森にも生息

しており、万博期間中頻繁

に瀬戸愛知県館にやってき

ました。夜行性で、日没後30分

ぐらいから活動し始めます。

首・足・尾の間にある飛膜を

広げてグライダーのように滑空し、木から木へ

と飛び移ります。飛膜を広げると特大の座布団

くらいの大きさになります。両手をうまく使っ

て、木の芽・葉・種子などを食べます。マツの

実も食べ、エビフライのような形をした食痕が

落ちています。大木の樹洞に巣を作るので、大

木がある森林でないと生息できません。頭胴長

27cm、尾長28~41cm、体重700~1500g。

